

本條ノ慰恤金ハ分割給與スルコトヲ妨ケス

第七條 業務上ノ負傷又ハ疾病治癒シタルトキニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル程度

ノ身體障害ヲ存スルトキハ左ニ掲クル區別ニ依リ扶助料ヲ給與ス

一、終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ 賃金二百日分

二、終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ 賃金百八十日分

三、從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康舊ニ復スルコト能ハサルモノ

又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ 賃金百二十日分

四、身體ヲ傷害シ舊ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ業務ニ服スルコトヲ得ルモノ 賃金五十日分

第八條 前條第一號、第二號ニ該當スル退隱者ニハ其ノ在職中ノ勤勞ヲ銓衡シ第六條ニ掲クル金額ト同額ノ特別退隱手當ヲ給與ス但シ前條ニ依リ給與シタル扶助料ノ額ハ之ヲ控除ス

第九條 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルモノ治癒退隱ノ場合前條ニ依リ難キモノ

ニハ第六條ニ掲クル金額以下ニ於テ特別退隱手當ヲ給與ス但シ再ヒ就業ノ後退隱スル場合ニハ事情ニ依リ幾分ノ手當ヲ給與スルコトアルヘシ

第十條 死亡又ハ傷病重キ場合ニ特ニ近親者ヲ呼ヒ寄スル必要ヲ認ムルトキハ一人ヲ限リ往復汽車、汽船、三等賃金陸行手當一里毎ニ拾錢及旅行日數一日毎ニ五十錢ノ日當ヲ給與ス

第二章 歸郷手當

第十一條 職工左ノ各號ノ一ニ該當シ解備ノ日ヨリ十五日以内ニ歸郷スル場合ニハ汽車汽船三等賃金陸行手當一里毎ニ十錢及旅行日數一日毎ニ一圓以下ノ日當ヲ給與ス

一、第四條ニ依リ扶助ヲ受クル者ヲ解備シタル場合

二、第七條第一號第二號ニ該當スル者ヲ解備シタル場合